

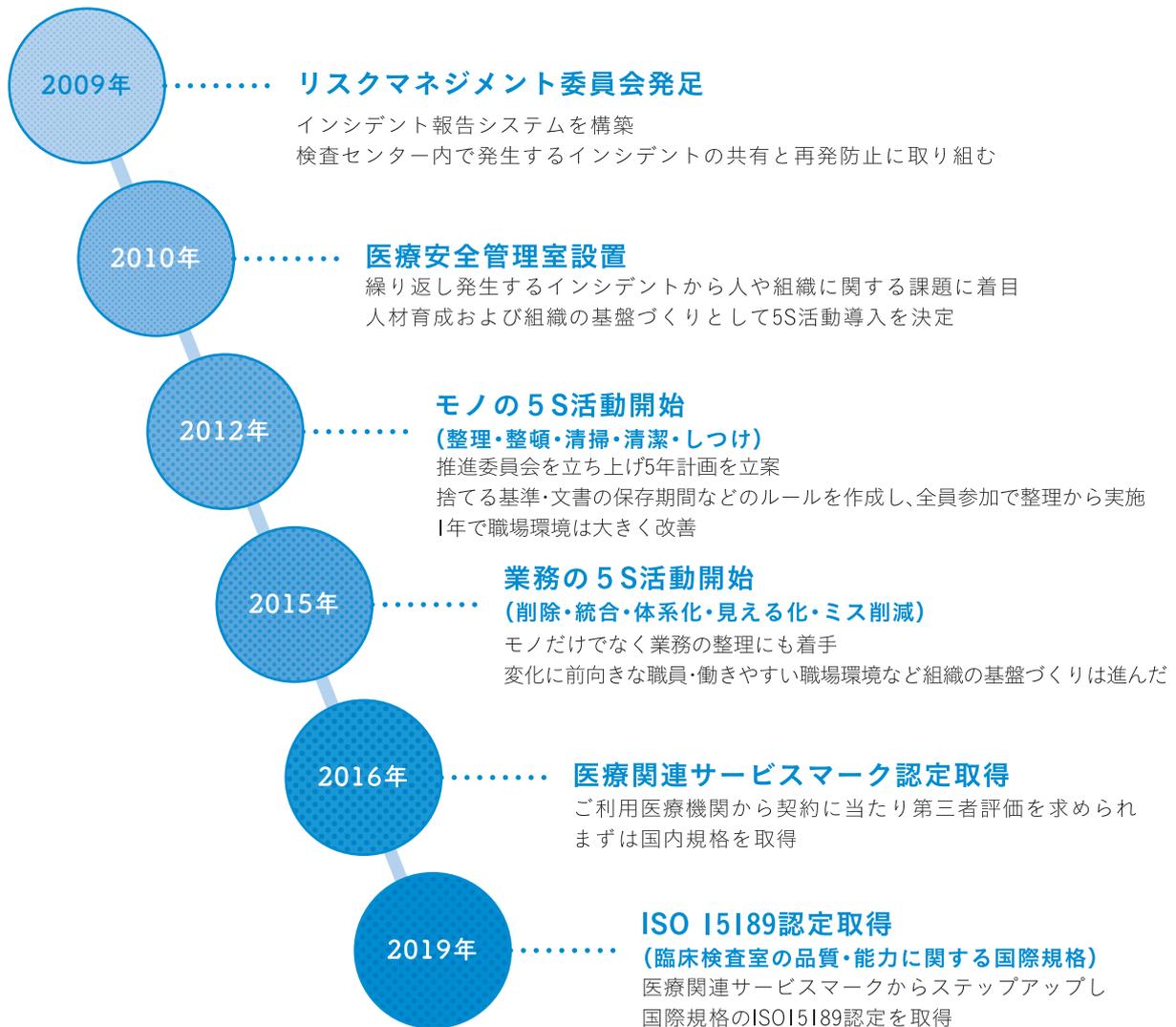
01 はじめに

検査センターでは、2009年のリスクマネジメント委員会発足以降、組織の基盤整備および人材育成に取り組んできました。同時に検査の品質管理を強化し、2019年に臨床検査室の技術・能力を評価する国際規格であるISO 15189の認定を取得しました。すなわち、検査の受託から結果報告まですべての仕組みと、精確な検査結果を出す技術・能力が国際基準を満たしていることが認定されました。これは、検査の品質を高める活動が

出来る検査室であることの外部評価が得られたということです。実際、ISO15189認定取得後には、組織的にPDCAサイクルを回しながらの改善活動が行えるようになりましたし、国際規格に準じて業務を行う事や委員会活動などが人材育成につながっていることを実感しています。

今回は、検査センターにおける組織の基盤整備～検査の品質保証の沿革、および現在の取り組みについて紹介します。

02 組織の基盤整備



03

人材育成および組織の基盤整備として5S活動を導入

2012年、リスクマネジメント委員会の希望で組織の基盤整備を目的として開始した5S活動ですが、今年で12年目に入ります。導入に先立ち、当時5S導入から15年を迎えていた福島県の総合病院の成功例を見学し、「自分たちもあんな職場にしたい!」という強い意志を持って活動を開始しました。

5Sの良いところは「成果が見た目でわかる」というところです。5Sは、職場の管理状態(現場のやる気)を現しますので、管理者もスタッフも手抜きはできません。自分たちで問題個所を見つけて改善し、少し良くなるとまた次の問題個所を見つけて改善するなど、PDCA

サイクルを回す前向きな姿勢で職場を確実に変えて行きました。

この取り組みによって得られたものは、エラーの削減、業務の効率化、コスト削減など様々ありますが、ISO認定審査の際に審査員から「他では見られない5Sが徹底されている職場」を評価いただき、「5Sが徹底されているからこそ短期間で認定を取得できた」と言われたことで、更に効果を実感しました。

5Sに終わりはありません。品質保証のベースとして、これからも5S活動を続けてまいります。



株式会社ベーシック・マネジメント研究所

高原 昭男 先生

広島市医師会臨床検査センターの5S活動にかかわらせていただき12年になります。最初の1年目は皆さん戸惑いも感じられていたようでした。また、一部の職員には抵抗感を持っていた方もいらしたようです。しかし、取り組み1年目を迎えたころから、劇的に職場の5Sレベルが向上した部署が複数あらわれました。2~3年が経過したころには、職場における5Sの取り組みの足並みがそろってきました。また、この時期になると職場改善への実践に対して抵抗感がなく、積極的に実行できる職員が多くなったと思います。数年前からは、業務の5Sの取り組みを開始し、安全や業務



効率をより高める具体的な改善案を策定できる職員が増えてきました。特に最近の取り組みで特筆すべきことは、全員参加による取り組みが浸透しており、改善結果を若手の職員が積極的にアピールする姿勢を示してくれることです。今後とも継続的な5S活動を期待しております。

参考



	材料費	人件費	文具	計
2013年	1,300		120	1,420
2017年	800	1,600		2,400
2022年	170	1,080		1,250

(万円)